

ISM2026-06

2026 年 7 月 24 日

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所

報道関係各位

AI 時代を支える高度統計人材の育成を開始

統計学の専門教員不足を解消し、2030 年代に毎年約 500 名の統計エキスパートを輩出

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所（所長：山下智志）は、国立大学法人 滋賀大学（学長：竹村彰通）と協働し、2026 年度から文部科学省補助事業「高度統計人材育成 強化拠点形成事業」を実施します。

本事業では、AI が急速な進化を続ける中、全国的な課題である統計学の専門教員不足を解消し、データサイエンス・AI の基盤となる統計学の高度人材を育成するため、全国の幅広い地域や分野の特性を踏まえた有機的な大学等ネットワークを形成し、高度統計人材を安定的に輩出する好循環システムの実現を目指します。

【データサイエンス・AI をめぐる環境が大きく変化】

我が国の高等教育では、データサイエンス系の学部・学科や教育プログラムなどの組織や仕組みの整備が、この数年間に急速に進みました。その一方で、AI 技術が急速に進化し、その利活用が急増する中、我が国の大学には、米国等の諸外国に設置されている統計学部・学科が存在しなかったことなどから、データサイエンス・AI の基盤となる統計学の専門教員の不足が課題になりました。

- 「データサイエンス系学部・学科」の新設ラッシュ:

「データサイエンス系学部・学科」を設置する大学の数、4 大学（2020 年度）から 40 大学（2025 年度）となり、この数年間に急増（統計数理研究所調べ）

- 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」認定校の急増:

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（リテラシーレベル）の認定制度が 2021 年度に開始され、認定された大学の件数は、490 件（2026 年 4 月現在）へと爆発的に増加

- 統計学の専門教員の不足:

組織・仕組みの整備が急速に進む中、大学教員の求人公募数は、「統計」（128 件）が「情報科学」（67 件）や「機械学習」（37 件）を大きく上回る

（2025 年 科学技術振興機構 求人公募情報サイトから 統計数理研究所 集計）

【AI 時代を支える高度統計人材を育成】

本事業では、データサイエンス・AI の基盤である「統計学」を体系的に教え、機械学習・ディープラーニング等の基礎となる統計的思考・手法を活用した研究・指導を行うことのできる統計学教員を始めとする高度統計人材を育成するため、幅広い地域や分野の特性を踏まえた有機的な人材育成ネットワークを形成し、高度統計人材を安定的に育成する好循環システムの実現を目指します。このため、AI 時代を支える統計学の専門教員の育成を加速し、統計学の高度人材育成の拠点を段階的に拡大していきます。

(注) 統計学（確率的推論技術）は、AI の中核技術において本質的役割を果たしています。また、AI を適切に評価し、その限界や不確実性を理解し、信頼できる科学的知見へと結び付けるための重要な学術基盤になっています。

（１）統計学教員の育成を加速

全国の大学等の助教・ポスドク等の若手研究者を対象に、期間 1 年間の「育成研修」を中心とする研修プログラムを開発し、実施します。研修修了者のうち希望者には、更に期間 1 年間の「フォローアップ研修」を実施します。研修では、数理統計学などに加え、AI 時代における因果推論、機械学習・深層学習、AI 活用の基礎としての R・Python などを学びます。

これにより、データサイエンス・AI の基盤となる統計学を教育・指導できる統計学教員を育成します。

- **質保証された統計学教員を育成：** 統計数理研究所長が修了要件を認定することにより、事業期間合計 4 期の研修を通じ、各期 20 名以上、質保証された統計学教員を育成します。
- **充実した指導・支援体制：** 日本統計学会会長、日本計算機統計学会会長、深層学習理論研究員等の経歴を持つ経験豊富なシニア教員（メンター）による少人数個別指導に加え、研修修了生がチューター教員として研修生をサポートし、研修生・修了生等によるコミュニティを形成するなど、充実した指導・支援を行います。
- **短期集中型プログラムの開発：** 育成研修・フォローアップ研修に加え、幅広く社会人データ活用指導者層や統計学担当教員等を対象として、AI と統計学を架橋する先端トピック群などが履修できる短期集中型研修プログラムを開発し、実施します。

（２）統計エキスパート人材を安定的に輩出

研修によって育成された統計学教員等が、全国の大学等で各種学術分野の大学院生等に対して統計学に関する教育・指導を行うことにより、更なる人材の創出に寄与します。これにより、統計エキスパート人材を安定的に輩出する人材育成の好循環システムの実現を目指します。

- **「大学等拠点」の構築：** 主要な参画大学等との協力・連携を強化し、地域や分野の特性を踏まえた複数の人材育成の拠点を、事業期間中に構築します。

このため、例えば、産学連携モデル、地域連携モデルなど、大学等の特性によって様々な類型が考

えられる「大学等拠点モデル」の在り方を検討し、2027 年度までにその整備方針を策定します。

- **毎年 500 名規模の人材を輩出：**事業で蓄積された人材育成ノウハウを大学等拠点モデルに移転するなどして、高度統計人材育成ネットワークを発展的に展開するための工程表を 2028 年度までに策定します。2030 年代に、毎年 500 名規模の統計エキスパート人材を安定的に輩出する人材育成の好循環システムを実現します。

【参考：これまで統計数理研究所で行ってきた事業】

文部科学省補助事業「統計エキスパート人材育成プロジェクト」（2021～2025 年度）では、当初の目標を大きく上回る成果を上げ、文部科学省、日本統計学会などから高い評価を得ています。

- **大学統計教員の育成：**5 年間に 3 期にわたる研修を終了し、目標の 30 名を大きく超える 38 名の大学統計教員を育成しました。
- **エキスパート人材の輩出：**育成された第 1 期研修修了生等により、2024 年度以降、年間 100 名を超える統計エキスパート人材を育成しています。
- **コンソーシアム参画機関の拡大：**統計エキスパート人材の育成に対するニーズは高く、コンソーシアム参画機関は、設立時の 21 機関から 30 機関に拡大しました。研修成果に対する参画機関の評価も高く、研修修了生も新たな研究成果を創出しています。

本件に関するお問い合わせ先

【事業内容について】

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所

大学統計教員育成センター 千野（ちの）、澤村（さわむら）

TEL：050-5533-8425 E-mail：ctps-tokatsu@grp.ism.ac.jp

【報道・広報について】

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所

運営企画本部 広報室

TEL：050-5533-8500（代表） E-mail：kouhou@ml1.ism.ac.jp

〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3



AI人材の育成・確保（文部科学省施策）

2026年3月現在

「AI法」（令和7年5月成立、9月全面施行）及び「人工知能基本計画」（令和7年12月閣議決定）に基づき、**人とAIが協働する社会の実現**に向けて、**AIを使い、AIを創るAI人材の育成・確保**に加え、人とAIの役割分担を模索しながら、**AI社会を生き抜く「人間力」を向上できる環境を構築**する。



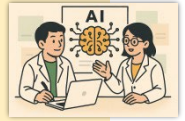
人工知能基本計画～「信頼できるAI」による「日本再起」～（令和7年12月23日閣議決定）

AIの利活用や開発を担うAI人材の育成・確保はAI社会実現のために必要不可欠である。特に具体的な付加価値を創出するためにも、AIに関連する基礎的・学術的な知見・知識を初等中等教育段階から向上させていくとともに、融合され得る産業等、様々な知見・知識についても広く有した人材の育成が重要となる。このため、国は主導して質・量ともにAI人材の育成・確保に取り組む。（第3章第4節「AI社会に向けた継続的変革」より）

AI研究開発 能力の強化 (若手研究者等)

A I・半導体の研究開発等に係るエンジニアや研究者などの育成・確保等【計画3章4節(3)②③】

- ▶ 生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成 ▶ AIPプロジェクトにおける人材育成ネットワーク機能の強化
次世代生成AIモデル構築の確立に向けた一連の知見と経験をAI研究者、エンジニア等に広く共有。
- ▶ 次世代X-nics半導体創成拠点形成事業
省エネ・高性能な半導体創成に向けた新たな切り口による研究開発と将来の半導体産業を牽引する人材の育成を推進。



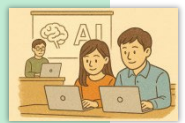
AIスキル獲得 (高等教育)

A Iの利活用に係る人材の育成・確保【計画3章4節(3)②】

- ▶ 高度統計人材育成強化拠点形成事業
データサイエンス(DS)・AIの基盤となる統計学について、大学等における教育・研究の中核となる統計人材の育成に係る取組を支援。
- ▶ デンタルと掛けるダブルメンジャーズ学院教育構築事業
人文・社会科学系等の分野を専攻する研究科等において、専門分野に数理・DS・AI教育を掛け合わせた学位プログラムの構築を支援。
- ▶ 数理・データサイエンス・AI教育の推進
大学や高専が実施する数理・DS・AIに関する優れた教育プログラムを政府として認定し、取組を促進。コンソーシアム活動を通じて普及・展開を促進。

A Iの進展に対応したリ・スキリング支援【計画3章4節(3)④⑤】

- ▶ 産学連携リ・スキリング・エコシステム構築事業
大学等が地域の産学官や企業と連携し、人材ニーズを踏まえた教育プログラムを開発・実施。
- ▶ 専修学校による地域産業中核的人材養成事業
専修学校が自治体や企業等と連携し、AIの活用等のデジタル技術等を用いたアドバンスド・エッセンシャルワーカー創出のためのリ・スキリングを含めた教育コンテンツ・カリキュラムを開発。



AIリテラシー向上 (初等中等教育)

情報活用能力の向上を図るなど、AI時代にふさわしい教育の推進【計画3章4節(3)⑦、(4)②】

- ▶ 生成AIの活用を通じた教育課題の解決・教育DXの加速
生成AIパイロット校を通じた利活用事例の創出、教育課題に特化した生成AIの利活用に関する実証研究の実施。
- ▶ AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業
地域の魅力発信等に向けた会話練習量の増加や家庭学習におけるAI活用等、AIを英語の授業等で活用するモデルを構築。
- ▶ 学習指導要領改訂を見据えた情報活用能力の抜本的な向上
中学校技術科教師の指導力向上のための研修の充実支援、情報モラル教育の推進等を実施。



※ AI人材の育成・確保に資する主な施策を掲載。その他の関連施策として、高校段階における理数系人材育成を支援するとともに、大学や専修学校における理系転換等を推進。

AI時代を支える 新たな統計エキスパート人材育成

-高度統計人材育成強化拠点形成事業-(2026~2030年度)

【現 状】データサイエンス系の組織・体制が急拡大

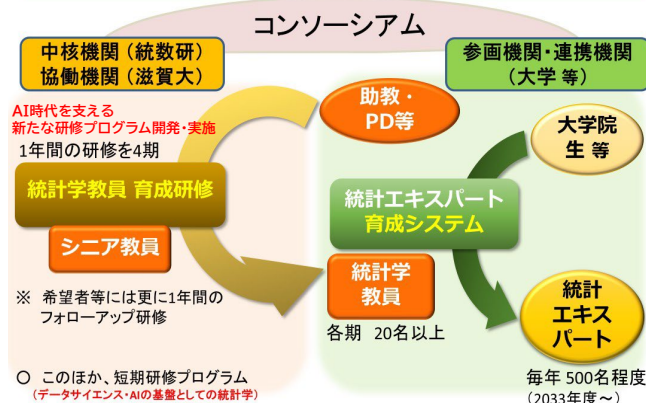
- ①「データサイエンス系学部・学科」の新設ラッシュ
設置校：4大学(2020年度)⇒40大学(2025年度)
- ②「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」制度の創設
認定校(リテラシーレベル)：0大学(2020年度)⇒490大学(2026年度)

【課 題】

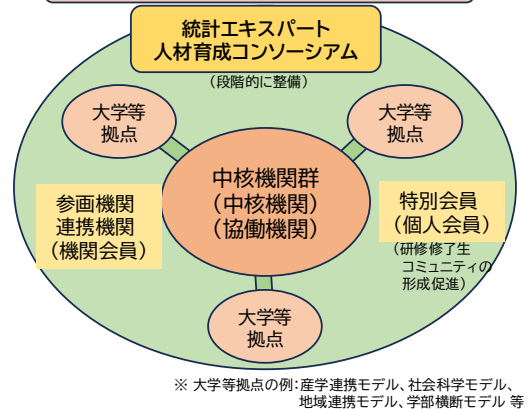
- ・データサイエンス・AIの基盤となる「統計学」の専門教員の不足が顕著
- ・AIが急速に進化・利活用が急増する中、現在の供給ペースでは追い付かない

統計エキスパート人材育成の好循環システムを早急に確立

統計学教員・統計エキスパートの育成を加速



人材育成の拠点を拡大



2026・2027年度

【事業推進基盤の形成】

- ・メンター・チューター教員 確保
- ・新研修プログラム等 開発実施
- ・大学等拠点モデル 調査・実証研究

2028・2029年度

【工程表の策定・事業推進】

- ・中間評価⇒工程表 策定
- ・新研修プログラム等 改善実施
- ・大学等拠点モデル 調整・実践

2030年度

【人材育成ネットワークの展開】

- ・大学等拠点モデル 整備
- ・拠点モデルを核に人材育成エコシステム 構築

2031年度～

【エコシステム】

- ・エコシステムによる人材育成 推進